

研究主題 「自他の大切さを認め、主体的に考え行動し、社会の一員としてよりよく生きようとする児童の育成」
 ～「考え、議論する道德」の授業実践を通して～

寄居町立男衾小学校

1 研究主題の設定理由

寄居町では、「道德のまち・寄居」を目指し、心のつながりを大切にする道德教育を、学校・家庭・地域が一体となり推進している。今年度は、町出身のアスリートの方の教材を町の道德部会で作成し、本人を招いての道德講演会を行った。児童生徒にとって、夢をもつことや諦めず挑戦することの大切さを考える貴重な機会となった。

本校では、一昨年度以前より道德教育の取組として、ローテーション授業の実施、校長や地域の方などのゲストティーチャーによる授業や説話の実施、児童と保護者の行動目標の設定や紹介・掲示、道德だよりの発行などを行い、家庭や地域を巻き込んだ道德教育を進めてきた。

学習指導要領において「特別の教科 道德」として新たに位置づけられ、これまでの道德から「考え、議論する」道德科への転換が図られている。しかし、「考え、議論する」道德教育の効果的な指導法の工夫や周知、他の教育活動や家庭・地域とのより一層の連携に関しては、まだ課題が見られる。以上のような本校の道德教育や児童の実態を踏まえ、研究主題を設定した。

2 研究の仮説

- (1) 授業の中で、問題意識や興味・関心をもたせる導入や活発な対話を促す発問を工夫すれば、道德的な課題を児童が自分自身のこととして捉え、主体的に考える力が育まれるだろう。
- (2) 道德の授業を要として、他の教育活動との関連や家庭・地域との連携を深め、事前・事後指導の工夫をすれば、よりよく生きようとする児童が育成されるだろう。

3 研究の経過

時 期	内 容
5 月	研究組織、各部部長及び授業者の決定 学習指導案の形式、教材分析シート、掲示物等についての共通理解
6 月	第1回校内授業研究会（4・5年）
7 月	道德アンケートの実施・分析 プレ授業・学習指導案検討
8 月	本発表に向けての学習指導案検討
9 月	プレ授業・学習指導案検討
10 月	第2回校内授業研究会（1・5年）

1 1 月	本発表に向けてのプレ授業・学習指導案検討 研究紀要の作成
1 2 月	研究発表会（1・3・6年公開授業）
2 月	研究のまとめ（各部ごとの成果と課題の確認）

4 研究の内容

(1) 「考え、議論する」授業部会の取組

①教材分析シートの活用

・本校独自のものを作成した。内容は教材観や発問、具体的な手立て等についてであり、児童にどのような変容を期待するのかのイメージを明確化できるようにした。

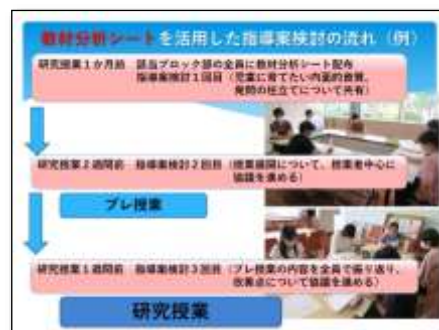
・今年度は、授業者だけでなく、指導案検討に参加する全教員にシートを書いてもらった。授業の構想段階からそれぞれの意見を集め、教材を多面的・多角的に捉える一助になっている。



②ローテーション授業、TT授業

・ローテーション授業は、担外の教員も学年に入り、担任と題材を分担し、授業にあたった。同じ教材の授業を複数回行えるので教材研究が深まる、児童の様子や展開等について、教員間で情報交換する場が増える、といった前向きな効果がみられている。

・TT授業実践では、発言を板書する役割と発言への切り返しを担当する役割の分担、役割演技や終末の説話等の分担、教師同士の掛け合いから児童へ疑問を問いかけるなど、教師が2人いることの良さを生かし、取り組んだ。



③ICTや思考ツール活用の研究

・ICTを活用し、デジタル教科書の範読、アンケート結果の提示、アプリケーションソフト「Skymenu」のポジショニング機能の活用を実践した。個人の考えや意見の変容を視覚的に捉えることができ、議論を深める方法として効果的だった。

・児童が考え、議論するきっかけとなる思考ツールを研究した。具体物や板書で活用できそうな図についてまとめた。



④授業部資料集の作成

・その他、指導いただいた内容や研究で進めた内容をもとに、「道徳の学び方」や「ねらいにせ



埼玉県道徳教育研究推進モデル校 実績報告書

まるための発問」について研究を進め、作成した資料を「道徳資料集」としてまとめた。まとめたものは各学級に配布し、授業のちょっとした時間にもみてもらえるよう周知、活用した。

(2) 「心豊か」調査・環境部会の取組

①児童アンケートの内容検討・実施・検証

・アンケートは、ア道徳授業に関すること、イ学び合いの時間「なかまタイム」に関すること、ウ目指す児童像をもとに関連する内容項目を抽出したものの、3つで構成した。情緒的側面、行動的側面から内容を考えたり、発達段階に応じて文言を変えたりするなど検討を重ねた。数値が低い観点の原因を分析、授業改善につなげた結果、第4回では第1回に比べ、全ての観点で数値の向上が見られた。アンケートは学習指導案の実態把握にも活用した。



②家庭・地域との連携

・月1回程度、保護者向けの道徳だよりを発行している。道徳の授業に関するだけでなく、保護者からの家庭における児童の行動の様子や、道徳だよりの感想なども掲載し、学校と家庭での双方向のやり取りを行うことができた。道徳だよりは地域にも回覧し、地域にも学校の道徳教育の取組を知らせた。

・11月に実施した全校での道徳授業参観では、道徳だよりで事前に公開する授業のねらいについて知らせた。「彩の国道徳『未来に生きる』」の教材を取り上げ、保護者に授業に参加してもらったり、授業の感想や家庭で話し合ったこと等をアンケートで書いてもらったりした。また、その内容も道徳だよりに掲載した。



③道徳コーナーや教材の充実

・学級の掲示物として、～咲かせよう心の花～を作成し掲示した。内容項目や児童の振り返りが書かれたハート型の紙を、授業が終わるごとに貼り、学びを振り返ったり、友達と考え方の比較ができたりにした。

・学校の道徳コーナーには季節や行事に合った掲示をした。道徳的内容について、直感的に操作できるような内容のものにし、児童が興味をもって見られるようなものにした。



埼玉県道徳教育研究推進モデル校 実績報告書

(3) 様々な授業実践

①校内授業研究会

・外部から指導者の先生を招聘し、2回の校内授業研究会を実施した。授業研究会に向け、全職員で教材分析シートを持ち寄り、指導案検討を重ねた。どう児童に問題意識をもたせ、多面的・多角的に考えさせるか等の効果的な指導法について研究を深めた。



②道徳一人一授業

・授業展開を熟慮したうえで、一人一授業の研究授業を公開した。放課後には研究協議会を行い、授業内容について話し合ったり、校長からの指導を受けたりし、自身の道徳教育の実践を振り返り、すぐに役立てることができる取組となった。

5 研究の成果と課題

(1) 成果

- ・教材分析シートを全職員で活用することにより、授業のねらいが明確になったり、ねらいにせまる授業展開を多面的・多角的に考えやすくなったりして、「考え、議論する道徳」の授業づくりに対する意識を高めることができた。
- ・ICTや思考ツールの活用法について研究を深めたことにより、それらの活用が本校のスタンダードになり、児童が主体的、多面的・多角的に考えたり議論を深めたりするきっかけとなった。
- ・道徳コーナーを充実することにより、今までの自分を振り返り、道徳的課題に対する自分の考えや思いを書ける児童が増えた。
- ・日々の教育活動において、「規律ある態度」とも関連させた指導を重ねたことにより、あいさつや返事、清掃活動、くつそろえ等進んで実践できる児童の姿が多く見られた。

(2) 課題

- ・道徳の授業で考えたことを実生活で生かすことができるように、実践につなげられるような場の設定について、引き続き研究していく。
- ・各アンケートそれぞれの関連性を踏まえた分析、授業改善を進めていく。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大の状況をみながら、学校外の人材を招いたゲストティーチャーの活用等、地域との連携をより深められるような取組をしていく。